

- 問1 平安時代中期に、地方の統治や徴税などの実務を一任された地方官を何という？
- 問2 平安時代初期、地方政治の立て直しを図り、国司への監督を強化した天皇は誰？
- 問3 清少納言が記した、宮廷の生活や自然について独自の感性で書きつづった日本を代表する文学形式は何？
- 問4 天台宗において、あらゆる人が救われるという教えの中心となっている経典を何という？
- 問5 平安時代に瀬戸内海地方で海賊を率いて反乱を起こした人物は誰？
- 問6 比叡山で修行を積み、後に鎌倉時代に新しい宗派を広めた指導者たちの総称を何という？
- 問7 平安時代末期に厳島神社の社殿を整備した武士は誰？
- 問8 源氏物語が生まれた当時の、貴族の感性を反映した日本独自の華やかな文化を何という？
- 問9 摂関家を外戚に持たず、荘園整理令を出して藤原氏の勢力を抑えた天皇は誰？
- 問10 国司が中央政府から認められた、現地の税を集める権利を何という？
- 問11 平治の乱で勝利し、武士として初めて太政大臣に任命された人物は誰？
- 問12 平安時代後期に貴族の間で流行した、死後に阿弥陀如来の助けを借りて極楽浄土へ生まれ変わることを願う考え方を何という？
- 問13 院政を行うために、天皇の住む御所の外に設けられた上皇の執務機関を何という？
- 問14 平安時代に日本独自の文化が発展したきっかけとなった、遣唐使が停止された時期はいつ？
- 問15 『源氏物語』を書き、平安時代の国風文化を代表する女性作家は誰？
- 問16 平安時代中期、天皇の後を出すことで政治の実権を握った代表的な一族は誰？
- 問17 平安時代初期まで、日本が中国（唐）へ文化や制度を学ぶために派遣した使節を何という？
- 問18 国風文化のなかで、漢字を簡略化して作られた文字を何という？
- 問19 平安時代初期に唐から天台宗を伝え、比叡山に延暦寺を開いた人物は誰？
- 問20 平安時代後期に院政を最初に始めた上皇は誰？
- 問21 794年、奈良の平城京から都を現在の京都へ移し、新しい都を建設した天皇は誰？
- 問22 清少納言が仕え、『枕草子』執筆のきっかけとなった一条天皇の後は誰？
- 問23 平安時代に唐から帰国し、比叡山に延暦寺を建てて天台宗を開いた僧は誰？

答え合わせ・解説

問1	答え 国司	国司は地方の政治や徴税を一手に引き受ける地方官です。この職に就くことは、地方の富を吸収できるため、貴族たちにとって大変うまみのあるポストとされていました。
問2	答え 桓武天皇	桓武天皇は長岡京を経て平安京へ都を移し、国家の立て直しを行いました。地方行政の主役である国司を中央から厳しく監視し、不正を防ごうとしました。また、蝦夷の平定にも力を注ぎました。
問3	答え 随筆	随筆（エッセイ）は、決まった形式にとらわれず、作者が思ったことや見たこと、季節の移り変わりなどを書き記す形式です。清少納言の『枕草子』はその代表格であり、彼女の鋭い視点やユーモア、時には批判的な意見なども書き込まれています。かな文字が使われたことで、日本語特有のリズムや情緒を豊かに表現できるようになりました。
問4	答え 法華經	法華經は、天台宗が最も重視する經典で、「すべての人は平等に救われ、仏になることができる」という教えを説いています。最澄はこの經典に基づき、人々に正しい修行と理解を求めました。この包摂的な教えは、特定の僧侶だけでなく、多くの人々に仏教の門戸を開く役割を果たしました。
問5	答え 藤原純友	藤原純友は、瀬戸内海を拠点とする海賊のリーダーとして勢力を持ち、朝廷に対して反旗をひるがえしました。同時期に関東で平将門が起こした乱と合わせて「承平・天慶の乱」と総称されます。海と陸の二大拠点で同時に反乱が起きたことは、朝廷の地方支配の弱体化を如実に示しました。
問6	答え 鎌倉新仏教	比叡山延暦寺は、当時最高の仏教教育機関でした。そこで学んだ法然、親鸞、道元、日蓮、栄西などは、厳しい修行や学問が困難な民衆や武士のために、より平易な教えを創設しました。これが鎌倉新仏教と呼ばれる一連の宗派です。「専修念仏」や「坐禅」など、個人の信仰のあり方を重視したのが特徴です。
問7	答え 平清盛	清盛は日宋貿易を積極的に進め、経済的な力を高めました。航海の安全を祈願して、瀬戸内海の厳島神社を厚く信仰し、豪華な社殿を整備しました。平氏の権力は全盛を迎え、一族で朝廷の高位を独占するまでになりました。
問8	答え 国風文化	かな文字の発達により、『源氏物語』や『枕草子』などのすぐれた文学作品が生まれました。また、貴族の住宅様式である寝殿造や、大和絵などの芸術も発展し、平安貴族の生活に深く根付いた文化が形成されました。
問9	答え 後三条天皇	後三条天皇は、母が藤原氏出身ではない天皇として即位しました。記録荘園券契所を設置して延久の荘園整理令を出し、不正な荘園を廃止して朝廷の財源を確保しました。これにより、藤原氏の経済的基盤が揺らぎ始めました。
問10	答え 徴税権	10世紀頃、朝廷は国司に一定額の税収を保証させる代わりに、徴税権や地方の行政権を大幅に委譲しました。これにより国司は現地の経済を支配し、大きな利益を得られるようになりました。
問11	答え 平清盛	平清盛は、平治の乱で源義朝を破って政権を握りました。武士として初めて太政大臣に任命され、一族の繁栄を築き上げました。また、日宋貿易を積極的に行い、経済的基盤も強化しました。
問12	答え 浄土信仰	浄土信仰は、阿弥陀仏を信じ、その名（南無阿弥陀仏）を唱えれば、死後に極楽浄土へ行くことができるという教えです。当時の貴族たちは、自分の館や寺院の建物に阿弥陀仏を安置し、豪華な飾りつけをすることで、現世に極楽浄土を再現しようとしました。平等院鳳凰堂はその代表例です。
問13	答え 院庁	院庁は、院政における実務的な行政機関であり、上皇の意志を国家政策として実行する役割を持ちました。ここで出される命令は「院宣」と呼ばれ、強い権力を持っていました。組織として整備されることで、摂関政治とは異なる独自の政治体制が確立されました。
問14	答え 9世紀末	894年、菅原道真の建議により遣唐使は停止されました。これにより、大陸からの直接的な影響が減り、日本の風土や日本人の感性に合った文化が育まれるようになりました。これが国風文化の始まりです。
問15	答え 紫式部	紫式部は、藤原道長の娘に仕えながら、『源氏物語』を執筆しました。この物語は、主人公である光源氏の栄華と没落を通して、人間の心理や当時の貴族社会を克明に描き出しました。
問16	答え 藤原氏	藤原氏は、自分の娘を天皇に嫁がせて生まれた子を次代の天皇にすることで、天皇の親戚（外戚）として権力を振るいました。藤原道長の時代に全盛期を迎え、朝廷の主要な官職を独占しました。
問17	答え 遣唐使	遣唐使は、天皇の命を受けて唐へ派遣された公式の外交使節団です。留学生や僧侶も同行し、帰国して新しい仏教（密教）や学問、技術を日本に持ち帰りました。しかし、894年に菅原道真の建議により停止されるまで、多くの人々が命がけで海を渡りました。これにより、日本は当時の東アジアの先端文化を吸収し、発展の礎を築くことができました。
問18	答え 仮名文字	仮名文字は、漢字の形をくずしたり、その一部を抜き出したりして作られた文字です。これにより、貴族たちは自分の感情を素直に表現できるようになり、和歌や物語の創作が盛んになりました。国風文化の発展を支えた最大の要因といえます。
問19	答え 最澄	最澄は唐へ渡り、天台宗を学んで帰国しました。比叡山に延暦寺を建立し、厳しい修行を通じて多くの高僧を育てました。また、大乗仏教の戒律を授けるための「大乗戒壇」の建立を目指しました。
問20	答え 白河上皇	白河上皇は1086年に院政を開始しました。上皇は自分の屋敷である「院」に院庁という機関を設け、天皇に代わって国の重要事項を決定しました。これにより、有力な貴族ではなく上皇が政治の主導権を握るようになりました。
問21	答え 桓武天皇	桓武天皇は、こうした古くからの仏教勢力の強い影響を断ち切り、天皇中心の強力な政治を行うために遷都を断行しました。まず長岡京への遷都を試みましたが、工事の難航や不祥事により中止し、新たに平安京を建設しました。平安京は四神相応という風水思想を取り入れた計画的な都市として設計されました。
問22	答え 中宮定子	中宮定子は非常に教養深く、気品あふれる人物として知られていました。彼女に仕えた清少納言は、その優雅な振る舞いやサロンの様子を『枕草子』の中に書き残しました。定子は、平安貴族の優雅な生活を象徴する存在の一人です。
問23	答え 最澄	最澄は、唐に渡って天台の教えを学び、日本に帰国して比叡山に延暦寺を建立しました。彼は「すべての人が救われる」という平等を説き、厳しい修行を重視する天台宗を開きました。また、比叡山には多くの優れた僧が集まり、後の日本仏教界に多大な影響を与えました。